

ACE 人権通信 9月

人権教育・啓発通信：「エース」
 発行：阿南中学校家庭・人権教育部
 (No. 4) 2022年9月26日(月)
 文責：人権教育主事 中岡 和也

9月に入り、暑さも少し和らぎ過ごしやすくなってきましたが、徳島県では、新型コロナウイルス感染者がまだまだ多い現状が続いており、阿南中学校でも感染症対策を徹底する日々を送っています。しかし、阿南中生は、どんな場面でもやるべきことをきちんとして目標を見失うことなく、一生懸命目の前のことに取り組んでいます。また、夏休み中は寂しかった校舎も9月から阿南中生の笑顔や活気があふれており、「生徒がいてこそこの学校」だと改めて感じています。今後、しんどいことや苦しいことなどがあったときには、一人で抱え込まず先生やスクールカウンセラーに相談して一緒に考え、解決していきましょう。



「阿南中生が阿南中学校を大好きでいられるように」みんなで協力してよりよい学校にしましょう。

◇人権啓発標語学校代表が決定

7月に学校や各家庭で考えていただいた人権啓発標語の審査を教職員、PTA家庭・人権教育部の皆様にご協力いただき行いました。審査の結果、次の標語が学校代表として選ばれました。この標語を通して人権を考えるきっかけになればと思います。

<生徒代表作品>

3年	橋本 結	つまないで 笑顔の芽 つみとって 差別の芽
3年	庄野 麗桜	男だから？ 女だから？ みんな同じ人間だから
3年	山内 悠生	ありがとう 一言だけど 暖かい
2年	武田 蓮	差別なく その人らしさが 光る社会
2年	君島 美有	ふみだそう 心の距離も 一歩から
2年	新居 杏月	私はね だれともちがう 特別な 一人一人の 個性があるの
1年	久原 瑞貴	思いやりはリンクする 私からあなたへ 人から社会へ
1年	佐々木 理唯奈	SNS 消えない書きこみ SOS
1年	山本 ゆな	その勇気 あの子の苦しみ 消す力



<保護者代表作品>

三島 令子さん	あらためて 感じてほしい あなたがいることの幸せを
佐藤 真実さん	見てあげて スマートフォンより 子どもの目
下村 千恵さん	その言動 自分は「一瞬」 その子は「一生」
大津 征生さん	気づいてる？ いじりといじめ 紙一重



◇人権ポスター原画コンクール&人権ポスターの作品紹介

7月15日(金)に人権ポスター原画コンクールを実施しました。差別解消への思いを込めて各学級でポスターを描きました。一人ひとりが心に響く言葉や絵を描き、さまざまな人権課題を解決するためにポスターを通じて人権啓発することができていました。職員室横に各学級の代表作品を掲示しています。代表作品を見て、人権について考えてみてください。

人権原画コンクール作品



人権ポスター作品



◇9月 各学年の人権学習 再スタート

9月から授業が再スタートし、人権学習も各学年計画的に取り組んでいます。1年生と2年生では「部落史」、3年生では「就職差別」について学習し、他者の思いを想像したり、共感したりすることを通して、優しさや思いやり、そして助け合いの心を育てています。

授業の様子を見たり、人権学習での感想を読んだりすると阿南中生は本当に温かく優しい気持ちを持っているなど感心します。そのよさを次は行動へ移していきましょう。

今回、1・3年生の人権学習の様子を紹介します。



昔は勝手な考えで、差別されていた人がいることを知り、こわくなりました。確かに昔と今では恐れるものも変わっていますが、国のために働いてくれている人々を差別するのはおかしいと思いました。昔でも周りに合わせて自分の意見をすて、一緒になって差別してしまう人も多かったのではないのでしょうか。それは、現在の日常生活の中でも見られます。一人ひとりが意見を言えるような社会にしていきたい。

(1年 岡澤 愛奈)



←いつも一生懸命授業に取り組んでいる3-4です(^o^)
頑張っている姿がとても素敵でした。

落ち着いた雰囲気でも授業に取り組んでいる1-3です(^o^)
真剣な表情が素敵でした。



志望の動機や能力があれば就職できると思っていたが、部落差別により就職できない現実を初めて知りました。いつどこでどんな差別に出会うか分かりません。差別が当たり前の世の中にしたくないと思いました。

(3年 島原 怜愛)

～阿南中学校人権コンサート開催について～

- 日 時 令和4年10月28日(金) 13:45～15:15
- 場 所 阿南中学校体育館
- 参加者 阿南中学校1・2年生
富岡・見能林・津乃峰小学校(第6学年)
- 講師 ヒゲンジツシュギさん(宮地 克也さん・はんやる はるやさん)
- 人権コンサートテーマ 「【生きること】【命の大切さ】を伝えたい」

※新型コロナウイルス感染症の感染状況により中止になることもあります。

◇阿南市人権教育・啓発市民講座に参加して

8月23日(火)に阿南市人権教育・啓発市民講座で鮎喰教育集会所主事の弘瀬正彰さんの講演がありました。「水平社100年 同和問題の現状と課題」という演題で、差別とは何かや部落差別は現在も存在しており国民的課題であることなどさまざまな視点からお話をされました。また、結婚差別やインターネット上での部落差別など現在もこのような差別で苦しい思いをしている人がいる現状をどのように解決していけるか。差別をしない、させないことはもちろんですが、なくすことも大切だと今回の講演を聴いて感じました。今回、講座に参加したPTA家庭・人権教育部の部員の方の感想を紹介します。



表向きでは、差別はいけない事と分かっているけど、身近な問題になるとまだ根強く差別意識が残っているのだと分かりました。異質なものに対する嫌悪、未知なものに対する恐れや恐怖が偏見や差別を生み出すことがあるので、差別もいじめもすぐに止めることが重要で、そのためには、人権教育と啓発が大切だと思いました。家庭での差別意識が生み出されないよう、私たち保護者も意識を変えなければならぬと思いました。

部落差別の起源から、現状まで説明してくださいました。同和問題は昔のお話という意識が私にもあったのですが、今なお数パーセントの人が被差別部落出身の人との結婚を反対していたり、ネット上で部落差別的発言があったりします。「過去のこと」と片づけてしまう意識が部落差別の根元を残してしまっているのだと思いました。差別というものは、多数派が少数派に対して偏見を持ち、排除しようとする傾向にあります。国民一人ひとりが人権問題に対して高い意識を持つためには、結局、教育と啓発を継続していくことが大切だと思いました。

学校教育のなかでもさまざまな人権課題について生徒たちと共に学習しているが、今回の講演の部落差別についてもじっくり時間をかけて課題解決に向けて考えている。今回の講演から「部落差別から学ぶ」という意識がとても大切だと思う。私自身が人権学習を学級でしていたときに教員が「教える」、生徒は「教えられる」という固定化された環境が嫌だったので、謙虚な姿勢で生徒たちと「共に学ぶ」関係を意識してきた。また、教師自身が学び続けること。これらの姿勢が生徒たちに伝わり差別をなくす仲間として助け合えると思う。教育の現場でも人権意識を高め、まずは真実を知り、思いに共感し、自分にできることを考えていく。よいことも悪いことも「気持ちは行動に表れる」。謙虚な気持ちで相手の話を受け入れて自分の力とし、一人ひとりの人権が守られる阿南中学校にしていきたい。

◇次回 阿南市人権教育・啓発市民講座 案内

- 日 時 令和4年10月25日(火) 14:00～15:30(13:20受付)
- 場 所 阿南市文化会館(夢ホール)2階研修室
- 講 師 医療法人翠松会 居宅介護支援事業所 岩城クリニック
管理者 仁木 康統さん
- 演 題 『高齢者等支援の現状と今後について～ケアマネジャーとしての想い～』